

各地区業況アンケート結果（2022年4月調査分）

（2022年4月26日）

全国鉄鋼販売業連合会

日頃より当会へのご協力厚く御礼申し上げます。さて、4月25日締切で、当会役員141名に対しこのアンケートを行ったところ80名の回答があり（回答率56.7%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。DI = (A×2+B×1-D×1-E×2) ÷ 総回答数×100、（数は回答実数）

1. 4割弱の企業が売上数量前年割れ

問1】貴社の3月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	13	9	27	16	14	79	76
比率	17%	11%	34%	20%	18%	DI-11	DI-32
売上金額/前年同月比	42	10	19	5	4	80	76
比率	53%	12%	24%	6%	5%	DI+101	DI+70

2. 黒字企業は7割強

問2】貴社の3月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	30	28	13	6	3	80	77
比率	37%	35%	16%	8%	4%	DI+95	DI+58

3. 低調な販売変わらず

問3】貴社の営業窓口から見て4月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向		8	23	18	4	53	-33	-34
民間建設向	1	11	32	17	6	67	-24	-29
自動車向			23	10	4	37	-49	-48
その他需要家向		12	36	11	4	63	-11	-16
仲間取引		3	41	10	7	61	-34	-48
計	1	34	155	66	25	281	-28	-34
比率	0%	12%	55%	24%	9%			

4. 需要動向は変化なく低調予測

問4】貴社における向う5月から7月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横這い	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	1	17	45	12	4	79	75
比率	1%	22%	57%	15%	5%	DI-1	DI-1

5. コラム、軽量形鋼広巾以外はD I 値すべてマイナス

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	品種別	A	B	C	D	E		4月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-15	0	-3	-14	-9	3	-10	-3	-6	-15	-17	-10	-10	鉄筋用丸鋼			27	3		30	-10
-11	8	4	4	14	25	14	11	6	-3	-7	-3	-14	構造用丸鋼			25	5	1	31	-23
-6	0	0	0	11	21	6	6	6	-10	-9	-9	-10	平角鋼			29	2		31	-6
3	-3	6	23	33	48	41	43	35	20	7	0	-10	H形鋼		2	25	2	1	30	-7
19	14	24	83	125	140	142	150	139	88	91	13	19	コラム		8	14	1		23	30
-5	-3	6	-6	3	8	9	3	6	-11	-6	-15	-21	小形山形鋼			32	2	1	35	-11
-11	-6	-3	-9	3	9	9	8	3	-11	-6	-18	-21	中形山形鋼			30	4		34	-12
-11	-6	3	-16	6	8	9	11	6	0	-6	-9	-9	溝形鋼			30	3	1	34	-15
-6	0	17	39	50	73	68	65	34	19	0	0	-4	軽量形鋼C形		1	26	2	1	30	-10
-5	0	14	17	39	63	33	39	27	-5	6	0	-6	軽量形鋼広巾		1	15	1		17	0
132	148	158	162	166	158	123	110	79	45	24	3	-41	冷延薄板		1	21	8	3	33	-39
105	100	123	133	133	118	103	83	53	35	17	-17	-33	熱延薄板		1	27	6	1	35	-20
139	134	161	163	162	145	133	127	97	59	47	21	-24	表面処理鋼板		2	25	7	3	37	-30
143	150	161	168	169	164	126	109	80	47	15	-15	-27	酸洗鋼板		2	20	10	2	34	-35
84	95	104	116	113	114	100	76	43	30	10	-13	-18	中板		2	34	4	2	42	-14
34	36	56	76	102	95	90	83	67	53	26	-3	-5	厚板		4	30	8		42	-10
22	24	39	67	70	86	68	68	52	35	26	9	18	極厚板		2	13	3		18	-6
26	13	45	43	64	41	52	41	33	7	14	3	-7	縞板	1	1	24	2	1	29	-3
6	15	29	47	57	73	83	71	64	21	16	0	-3	中径角		2	29	1	1	33	-3
0	12	19	32	42	58	58	32	38	23	6	-3	0	ガス管黒			31	3	1	35	-14
3	6	20	29	49	61	61	39	38	19	13	0	0	構造用鋼管		1	29	2	1	33	-9
34	37	49	57	70	72	64	55	43	21	12	-4	-12	計	1	30	536	79	20	666	-13

6. 今後も予想されるメーカー値上げで流通は価格転嫁に待ったなしの状況

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交せて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	異形棒鋼は短期間で大幅値上げ。市況にまるでついていけない状況。春需の見積済み案件も含め収拾に追われる状況。
	B	(形鋼) やっと雪が溶けて徐々に荷動きが上向きになっているが、ここへきて新規引合いが減っており、この先が全く見えない状況。値上げも4月から本格的に実行するが、大幅な値上げに対し抵抗が強く相当苦労しそうである。
	C	降雪が多かったので雪害が出ている。倉庫案件に期待。
	D	昨年から決まっていた物件が雪解けとともに動き出したが材料値上り分のコストアップは誰が負担するのか。仕事が少ない中で赤字仕事は業界として避けたい。
東北	A	鋼材値上げは今後も想定され見積も有効期限を短くしてでしか回答できない。その反面、足元は製造業関連での注文が減少しており、ウクライナ情勢次第で更に厳しくなりそうである。
	B	新規案件は少ないが出ている。利益が減り与信不安は増すばかり。不透明な一年になりそうだ。
	C	鋼材価格が安定せず、先の物件の見積りに苦慮している。

新潟	A	春になり、若干だが物の動きも増えてきた様に感じる。自社トラックの燃料代等、あらゆる物の高騰をどのように販売価格へ反映させるか頭が痛い。
	B	必要な値上げで価格転嫁が難しいと思われるが、お客様に説明し転嫁していきたい。
	C	5～6月納品の引合いは増えてきているが、メーカー値上げ分を転嫁した価格での決定に苦戦しているようだ。
	D	メーカー値上げの動きに合わせて得意先は早めに資材の調達に動きが出てきた。Mクラス以下のファブは、夏位までの仕事は確保している様である。
	E	荷動きは全鋼種にわたり悪い。特に自動車向けの状況が深刻で在庫調整に苦労している。
	F	鋼材価格の更なる値上げが見込まれ、需要にどのような影響が出るのか不安である。過去にも例を見ない領域の価格帯となり、在庫の持ち方、先物の見積価格の提示等、判断が難しい。
	G	建築関連は比較的順調であったが、鋼材価格の急騰や入手難などの影響で物件の遅れや延期が出始めている。その他の産業も、足元停滞気味であり、先の予測が困難な状況となっている。
神奈川	A	原料高により高炉、電炉メーカーの値上げが発表され、先行きは価格面が強調され、新年度からの案件が順調に出てくるか心配される。
	B	材料費の値上りが続いている中、受発注は少なくなっており、在庫量を調整するのが、難しくなっている状況。
	C	トラック、ダンプともに中国におけるコロナ感染拡大、またロシアのウクライナ侵攻により部品調達は懸念事項となり、ひと月先の生産も読めず、振り回されている。
東京	A	3月は前年同月比で営業日以上の上高、販売数量が伸びた。売上高に至っては2年前の水準に戻ったが、利益率は低下傾向。旺盛な値上げ圧力は続く様相で中期的な鉄離れすら不安になる状況。
	B	前月比で、出荷重量増だが、稼働日数の関係で日当たりでは前月と横ばい。店売りは先月に引き続き不調。
	C	目先の加工量は低位安定だが、先は少し出てきそう。鋼材価格の上昇が需要家の購買力にどう影響するか注視していく。
	D	全般的に需要は低調のまま。販売量は前年比落ちており、在庫が減らないままである。メーカーが値上げする前に材料を買いたくても置き場がなく買うことができない状況。そんな中、高炉メーカーをはじめ、材料メーカーが大幅値上げを発表。需要が少ない中、末端の中小零細企業が持ちこたえられるとも思えず、販売先がどんどんなくなっていく様な気がする。
	E	3月は2月比、日当たり売上8%減。全品種不振。長期にわたると予想されるトラックの出荷停止による実需の冷え込みは既に深刻である。
	F	主力取扱商品である磨棒鋼の需要に変動はない。国際情勢の不安定化から自動車関連部品の今後の流通にも不安があり、この先の動向を鑑みて対策していく所存。
	G	(店売り) 引き合いは活発だが、様子見のところがあり、なかなか受注に結びつかない。(ユーザー) 建設機械の生産計画もウクライナ問題もあり、後ろ倒しの状況となってきた。
	H	建機、特装車向け部材は好調に推移しているが、他業界については安定しない荷動きとなっている。メーカーからは更なる値上げのアナウンスがあり、ユーザーへの価格転嫁が課題である。
	I	鉄筋の店売りは3月、ユーザーが先高観から売上数量ともに動きがあった。しかし、メーカーの売腰が強くなり店売り価格ももう一段上げる必要がある。
	J	どこの取引先においても単価確認が増えてきた。値上げ認知が浸透してきた証だが、工数が増えて業務は忙しくなっている。3月は年度末需要で大きかったが、コロナ以前の需要には遠く及ばない。忍耐の時期であるのは変わらない。

東京	K	サプライヤーの問題が引き続き深刻である。半導体をはじめ部品の調達に苦しんでいる。ウクライナ侵攻の影響もあり、今後のインフレ傾向に注視していく。メーカー値上げの転嫁を実行に移していきたい。
	L	4月の入ってからの荷動き、今後向こう3ヶ月の需要動向の問いについて横ばいとしたが、年初から続く低位横ばいという意味で回答した。
静岡	A	メーカーの値上げ発表後も足元の荷動きに変化なく低調。価格転嫁の確実な実行が肝要。建築は昨年、材料手配済の案件は予定通り着工し、秋口までMグレード中心に手一杯の状態。但し、10月以降に関しては見積も少なく、延期案件も出てくる気配あり。
	B	受注決定後の単価ネゴが増加。加工設備投資した流通加工業者（仲間）の後出しジャンケンが「案の定」増えた。材料単価は普通、加工単価（切断、孔明け、ブラスト）チャラである。ファブリケーターだけが鉄鋼業ではないが、まだまだ牽引役が変わりなし。鉄鋼製品市況、生活必需品市況ともに上昇し、世界情勢も有事を含め先行きに不安感は増すのみ。外国為替の状況も円安で芳しくないが、市中の顧客先から諸々の引合いが多い。インフレ傾向には注意。不良債権が更新中。
石川		半導体を中心に品不足商品が10種類以上あり、更に値上げや価格改定の案内が続いている。余剰品種ではないが、鋼材もモノ造り業の工程の遅れでとぼっちを受け持っている。建築も職人不足やSクラス、Hクラスの受注計画が約1年半先まで決まっているが、Mクラス、Rクラスは1か月前後までしか計画がない。但し、不連続の連続でもなんとかなっている。土木関連はまあまあだが、年間10兆円以上の国家予算にしないと自然災害予防に遅れる。
富山		コロナ以前の工業、民間案件はあるもののコロナ以後の新規案件は住宅関連以外は少ない。機械、車両も在庫遅れにより、仕事は減少傾向。鋼材入手減と出庫（売上減）は見合っており、不足感は弱まっており、値上げムードは昨年より弱く、転嫁の遅れは今年も続く。
岐阜		相場上昇の中、需要が少ない今は環境が悪い。今後の需要もしくはタイト感に期待なんて変だろ。利益の回復が急務。加工品やスピード対応など、仕事のハードルを上げて対処するしかないが、全員がついてこない。ユーザーも同じく、明暗が分かれている。親会社に受注減とならないよう値上げ話が出てきているかどうかそのクオリティがあるのかどうかこんな大変なことはない。
大阪	A	全体的に引合いは弱く、タイト感は緩んでいる。在庫過多が継続しているが、各鉄鋼メーカーの値上げ発表により先高観が出てきているため、特価（安値）は減っている印象。先高観から仮需が出てくる可能性もある。
	B	鉄筋用丸鋼の需要動向が順調。
兵庫	A	価格高騰の中、我々流通は価格をそれなりに転嫁できれば、食べていくことが出来るが、販売先の親会社への価格転嫁が非常に心配である。
	B	同業仲間で従業員を引き抜くのは、これからの労働力低下の傾向の中に問題がある。
岡山		建築向け切り板は旺盛にようだ。オートボラーを増やすとの話を聞く。大阪からの鋼材購入に支障はない。すべての製品に品薄感はない。小規模鉄工所の跡取り不在が多い。数年先が不安である。
北九州		3月は期末ということで数字的には上がっているが実需があるかと言えばそうでもない。メーカー出値も上げ基調であり、流通は価格転嫁もしないといけない。
福岡		末端需要は低調で荷動きに精彩を欠いているが、メーカーの更なる大幅値上げにより、販売価格への転嫁は待ったなしの状況。